

京都府立るり溪少年自然の家

データ検証	公共性	B	有効性	C	効率性	C
課題・問題点等	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者数がピーク時の約65%に止まっており、利用率も低い状況。 特に、冬季の利用率は約24%と低迷している。 ・京都府外からの利用者が全体の約40%を占めている。 ・南丹教育局管内の小中学校の利用も一部（約2割の学校）に止まっている。 ・府費負担割合が高いが、利用率の低迷や低廉な利用料金により利用料収入が少ないことによるものと考えられる。 					
検証結果	<p>統廃合</p> <p>南山城少年自然の家を廃止し、るり溪少年自然の家にその機能を集約すべきである。</p> <p>（理由）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・施設利用の現状、児童・生徒数の推移、施設維持に係る財政負担等を考慮すると、府内に2施設とも維持することは困難と考える。 ・利用者数の状況や施設の築年数、地理的条件等を考慮すると、「南山城」を廃止し、「るり溪」に機能を集約するのが妥当と考える。 					